

## 理事退任にあたって



前理事 須加原 一博  
(琉球大学医学部長)

平成23年6月をもって、県医師会の理事を退任いたしました。平成20年4月に琉球大学医学部附属病院長に就任して以来、本年6月まで県医師会の理事に加えて頂き、県医師会医学会副会長など学術担当理事として微力ながら協力し、いろいろ勉強させて頂きました。宮城信雄会長はじめ多くの皆さんからご指導・ご支援を頂き、何とか役目を務めることができました。心からお礼申し上げます。

県医師会の理事になり、最も驚いたことは、理事会が毎週2時間以上に亘って県民の医療、健康に関して、真剣かつ積極的に取り組まれて討論されていることです。沖縄県だけではなく、日本の医療動向にもいち早く対応していると感心しています。特に、今回の東日本大震災に迅速に対応できたのも日頃の取り組みの賜物と敬服しております。副会長の玉城信光先生は県政策参与であり、県医師会の意向は強く県政にも反映されると思われ、医療の質の向上とともに、県民は安心して適切な医療を受けることができるかと確信しています。

印象に残る県医師会の行事や職務では、赴任後麻酔科医会の会長として分科会活動や県医師会の広報委員会委員などしてきましたが、平成16年に附属病院の副病院長になり、沖縄県医師会主催の平成19年度全国医師会勤務医部会連絡協議会で、シンポジウム「病院の機能分化

について～、勤務医の現状をふまえて～」のシンポジストとして、大学病院の苦しい現状を報告させて頂いたことが県医師会との深い関わりでのスタートだったと感じております。

平成20年12月に県医師会館の新築移転も大きな出来事で、新会館の新たな高機能性ととともに県医師会活動も活発化してきました。麻酔科医会でも年2年開催している沖縄県麻酔・集中治療研究会も新会館を利用させて頂くことが多く、爽やかかつ円滑に運営されています。県の医療・保健福祉の活動拠点としてさらなる発展を期待しています。

また、地域再生医療基金事業では、県医師会の皆さんの強力なご支援により県の総意で「沖縄クリニカルシミュレーションセンター」の建設が決定し、この8月に琉球大学医学部構内に工事が着工されました。新会館と同規模のセンターが来年春には完成し、沖縄県の新しい医療教育研修施設としてはもちろん、日本やアジア地区の新拠点として注目され、沖縄の新たな目玉になると期待しています。

県医師会の皆さんからご指導頂いた医療や教育に対する真摯な姿勢、誠実さを活かして、質の高い医療人育成に貢献できればと考えております。県医師会のさらなる発展を祈念するとともに、これまで以上のご指導・ご支援をお願いして、お礼の挨拶とさせていただきます。